

技術展示コーナーを担当して

竹 内 勝 信 (たけうち かつのぶ)

技術展示部会長 (株)アーキジオ

1. はじめに

富山大会の技術展示コーナーは、2013年7月23日～25日の3日間にわたって、富山県民会館の1階美術館及び地盤展示室において開催しました。

技術展示では、68の出展者から71ブースもの出展があり、地盤工学に関係する様々な展示をして頂きました。

また、天気が悪い中、初日約530人、2日目約1310人、最終日(13時まで)約560人と、2.5日合計で約2400人もの方々に見学をして頂きました。出展者は元より、来場者の皆様にも、この場を借りてお礼を申し上げます。

2. 事前準備の状況

(1) 大会の2年～1年前

技術展示部会は、大会の約2年前の2011年春から始動し、1年前までには次のような準備をしました。

- ・ ブース数と会場の検討：大会の収支や過去の出展状況を考慮して、目標を70ブースとしました。会場は、展示実績の多い富山県民会館に決定しました。
- ・ 会場の詳細検討：70ブースの他、受付、特別会員PRコーナー、ドリンクコーナー等も考慮して、会場配置の叩き台を作成しました。これを元に、設営業者に詳細な会場案の作成と見積をお願いしました。
- ・ 情報とデータの共有：部会長や部員のメールアドレスを整理して、CC送信で情報を共有しました。また、Dropboxを利用して、データも共有しました。

(2) 大会の1年～3ヵ月前

大会の1年前からは、最も重要な出展者を確保するため、次のような作業を行いました。

- ・ 出展候補者リスト：候補者リストは、過去7回の出展者を調査した上で、過去の出展回数、前回の担当者、連絡先等も記載したものを準備しました。
- ・ 技術展示募集要項：技術展示の概要、ブースの概略、出展料、出展者の特典、申込先・連絡先等を検討した上で、募集要項に反映しました。
- ・ 出展者の募集：2013年1月から、候補者リストを参考に、募集を開始しました。北陸支部の役員はもちろん、過去5代の会長・副会長、現在の理事全員に、「出展勧誘の声かけ」に協力をして頂きました。
- ・ 連絡体制の整備：申込先・連絡先は、北陸支部事務局として、迅速に対応するため、メールは自動・FAXは手動で、技術展示部会に転送しました。

(3) 大会の3ヵ月～直前

締切後も出展者が増え続ける中、2013年4月からは、技術展示の本番に向けて、次の作業を行いました。

- ・ 出展者の広告：出展者には、出展者名、大会HPからのリンク確認と、技術展示のしおりに掲載する広告の作成をお願いしました。広告は、レイアウトが乱れないように、PDFを基本としました。
- ・ 出展者マニュアル：ブースの配置や寸法、搬入経路や時間、オプション品等を記載したマニュアルを作成して、出展者に準備をお願いしました。
- ・ 技術展示のしおり：技術展示の概要と出展者の広告を掲載した技術展示のしおりを作成しました。出展者名の修正や広告の差替えが続いたため、印刷の直前まで原稿の校正を繰り返しました。
- ・ 技術展示部会マニュアル：スタッフのため、担当者別にマニュアルを作成して、事前に配布しました。
- ・ 展示会場への集客：集客のため、無料ドリンクコーナー等を設けると同時に、お土産が当たる抽選会等を企画しました。また、国交省、富山県、関連団体等へ赴き、見学とPRをお願いしました。

3. 大会中の状況

初日は、末岡地盤工学会長の開会挨拶で始まり、午後には、実行委員会副委員長の柴田富山県土木部長(口絵写真—38)に会場して頂きました。初日で見学者も少ないことから、各会場で技術展示のPRをお願いしました。

2日目は、PR効果もあって、口絵写真—39～40に示すように、見学者も増えて盛況となりました。午後には、実行委員会委員長の野田北陸地方整備局長(口絵写真—41)に、各ブースへのお礼と見学をして頂きました。

最終日は、帰る前に技術展示を見学する人で、朝から盛況でした。また、抽選会でお土産を当てて喜ぶ人、外れの割引券でお土産を購入する人等で賑わいました。

4. おわりに

技術展示コーナーは、メイン会場から離れていたため、来場者が思ったほど伸びませんでした。しかし、様々な工夫によって、出展者と来場者を確保することができ、何とか合格点が頂けたと考えています。

最後に、技術展示に協力して頂いた関係者の皆様に、改めてお礼を申し上げます。

(原稿受理 2013.8.26)